

景況レポート

(8月分・情報連絡員80名)

非製造業5業種で好転割合が減少

【概況(全体)】

8月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向き15.0%(前回調査20.0%)、「悪化」が28.8%(同28.8%)で、業界全体のDI値は-13.8となり、前月調査と比較し5.0ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、非製造業で先月に引き続き全国及び東北・北海道ブロック平均を上回り、製造業についても東北・北海道ブロック平均を上回ったことで、景況DI値平均を引き上げる結果となった。

【業界別の状況】

鉄鋼・金属や建設業の一部で好転割合を維持しているものの、非製造業では5業種で前月との比較で好転割合が減少した。各業界とも依然として需要の減退や個人消費の低迷等により景気回復を実感できない状況にある。また、原材料費、人件費、燃料等の経営コストの増加や人材不足が一層深刻化している業種も多く、中小企業の業況に先行きについては引き続き注視していく必要がある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-13.8	-18.0	-21.3
製 造 業	-15.6	-15.4	-22.9
非製造業	-12.5	-20.0	-20.4

＜景況天気図＞

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

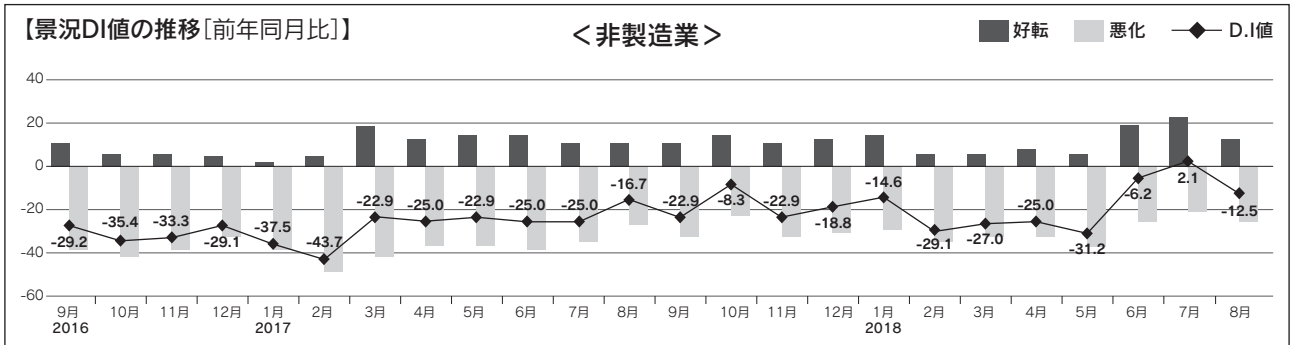
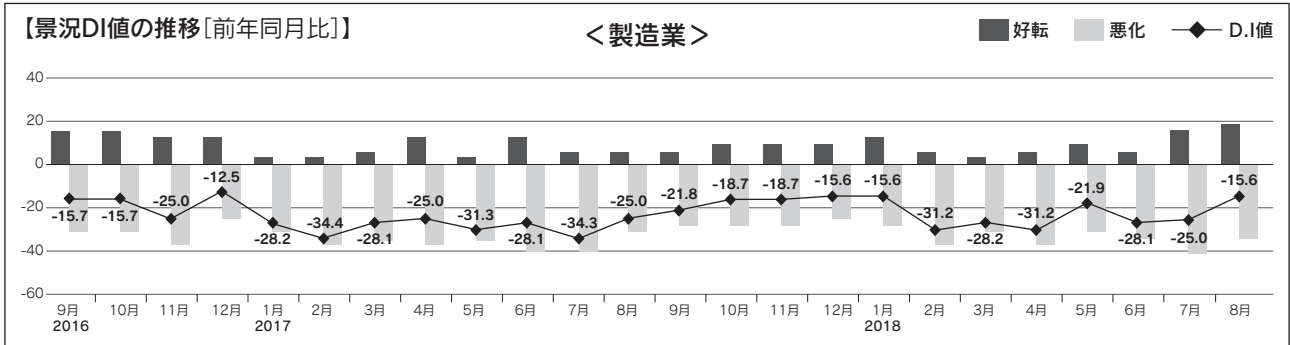
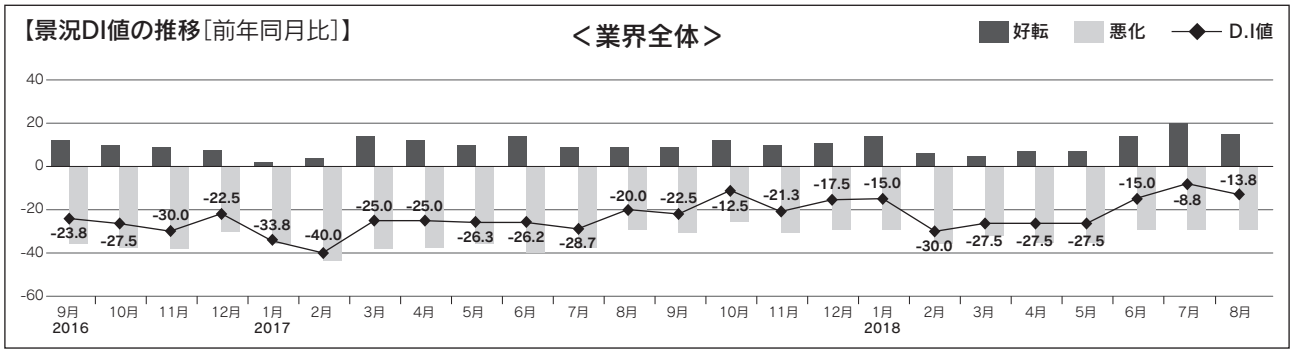
【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △10未満 △10未満
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ～製造業～

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (豆 腐)	お盆で季節商品の売上があり、売上は前月比では増加したが対前年同月比は減少した。毎年、夏場は豆腐の売上は落ち込むが、今年は特に暑い日が多かったことが要因である。
食 料 品 (パ ン)	8月は毎日高温及び悪天候のため小売が大幅に減少した。ただし、金農フィーバーで「金農パンケーキ」がヒットしている業者もあるが販売減少の回復には至らない状況にある。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	秋冬物生産の最盛期でキャパシティは埋まっている。先月に引き続き加工賃は厳しい状況にある。
織 維 工 業 (織 維)	婦人服については慣れた商品の生産がある程度効率よく回っている。細かい別注も落ち着き、量産品に力を入れて生産しているため来月は目標達成が期待できそうである。
木材・木製品 (一般製材)	原木の入荷量が前年に比較して、対前年比70%と極端に減少している。原木の出材量の不足感から公売の入札価格も高めで推移し収益面を悪化させている。
木材・木製品 (外 材)	住宅着工戸数は前年比で95%程度に減少しているものの西日本豪雨の影響や秋需要を見込む中でメーカーはこれまでと同等の生産水準を維持している。このため、在庫量は拡大しているが価格については横ばい傾向が続いている。
印 刷	低価格の発注、受注は依然として改善されておらず、需要の点数、量とも回復していない。来年実施される元号変更、消費税増税に関する調整事項が続いている。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	8月の出荷数量は前年比110.9%であり、4～8月累計で大館北秋地区以外は昨年を上回っているが、これは昨年が過去最低の出荷数量を記録したことの反動である。出荷数量増の要因として特に日本海側の能代山本、秋田、本荘由利地域の風力発電建設工事、ブロック工事等があげられる。
鉄鋼・金属 (機械金属)	前月より公共工事の受注が増加し、加えて民間工事も好調で各社とも売上、収益ともに好転しており、年間の受注についても確保されている。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	需要は伸びているが原材料の入手が難しくなっており、生産も追いつかない状況が続いている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (商業卸)	業種が多種であり、売上増、売上減とする企業がほぼ同数である。業種間、企業規模による較差は著しい。
卸売業 (青果)	前年同月比103.2%で推移した。天候不順が生育に影響し、野菜の生産が落ち込んでおり7月から高値傾向が続いている。
卸売業 (米麦卸)	米穀販売状況は8月末で販売進捗率92.0%となり、以降は新米の販売に切り替わる状況となった。平成30年産米は主食用米が過剰のため販売契約を先行して進めることが必要となったため、初めて播種前、収穫前契約を進めることとした。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり150円60銭で前月比は変わらず、軽油は1ℓあたり129円80銭で前月比80銭、配達灯油18ℓは1,713円で前月比6円とそれぞれ値を下げた。原油価格及び為替も大きな変動がなく、仕切価格も50銭の範囲での上下で末端販売価格も大きな値動きがなく安定していた。
商店街	ポイントカード事業部で夏セールを実施したが、昨対比では抽選本数、来場者数ともに減少した。(大館市) 家電販売店では夏期商品が好調であった。街区内のスーパーは競合激化により景況悪化が懸念される。(横手市)
サービス業 (タクシー)	運行回数及び運送収入は前年同月比でそれぞれ約2～3%下回った。これは猛暑で外出を控える人が多かったことによるものである。一方で、乗務員不足により電話での依頼に応えられない事業者もあるようだ。
サービス業 (旅行)	国内79%、海外94%。国内は台風の影響で取消が発生し減少した。9月もツアー中止、延期を検討する法人もあり天候が気掛かりである。
建設業 (一般土木工事)	豪雨災害復旧工事と一般公共工事の同時発注が続いているが、人手不足等の要因による入札不調が多くなっている。
運輸業 (トラック)	暑さにより清涼飲料、野菜は好調である。セメントについては動きが鈍いようである。